

補習校だより

2019年4月24日発行



新緑と花々が美しく咲く季節、テヘラン日本語補習校は一年の総まとめである学習発表会と修了式を行います。この一年で、どのくらい日本語を学べましたか。そして、どのくらい日本語や日本文化に親しむことができましたか。今までの学習の成果を、最終日に発表できるように練習していきましょう！

今月(オルディベヒト月)の予定

	イラン暦	西 暦	
第 25 回目授業	1398/2/5 パンジシャンベ	2019/4/25(木)	短縮授業 職業体験談
第 26 回目授業	2/12 パンジシャンベ	5/2(木)	通常授業
第 27 回目授業	2/19 パンジシャンベ	5/9(木)	短縮授業 修了式練習、他
第 28 回目授業	2/26 パンジシャンベ	5/16(木)	学習発表会 修了式

※ 4 月 25 日 放課後 お楽しみピクニック

5 月 16 日 登校時間と時間割が変則的なので、ご注意ください。

5 月 17 日(金)～9 月 25 日(水) 夏季休業、ティール月(6 月 22 日)以降希望者による夏季補習授業予定、

2019 年度補習校始業はメヘル月第一木曜日の 9 月 26 日(木)からとなります。



☆作文紹介☆

☆五年教科書『物語を作ろう』より 写真を選んで、そこからイメージを広げて物語を作りました。

「つり橋のむこう」 五年 牛越さくら

ある暑い夏の朝、一人の植物学者が新しい植物の発見をするために森へ探検に出かけました。

植物を探しながら森を歩いていると、一本のつり橋が目の前に現れました。つり橋の下には大きな川が流れていました。男はまよいましたが、つり橋を渡ることになりました。

ゆらゆらとゆれるつり橋をおそろおそろ渡る

と、その先は今まで見たことのない植物や生物、昆虫や動物がいて、まるで別世界のようにでした。男はうれしくなり植物をつみました。すると目のギョロつとした、キバをむいた動物が男の方へ近づいてきました。男はおそろしくなり、引き返そうとしましたが、つり橋は消えてなくなっていました。男は必死でにげました。やっと森を抜け、町の明かりが見えました。植物学者はどこか泊まる場所を探しましたが、町の人々は見知らぬ男をけいかいし誰も泊めてくれません。男が困ってすわりこんでいると、男の前に一人の盲目の男が立っていました。植物学者は盲目の男にこれまでのいきさつを話し、彼の家へ泊めてもらいました。翌日、植物学者は町へ出かけました。町にも見たことのない植物がたくさんありました。植物学者はうれしくなり、珍しい植物をたくさん集め、自分の家へ持ち帰り研究しようと考えました。そして盲目の男につり橋まで案内してもらうように頼むと男は言いました。

「この世界の物を持って出ることはできない。あのつり橋は、この世界とあなたの世界をつなぐ橋だが、この世界の物を手にした者の前には現れない。あなたの世界に帰りたければ、集めた物をおいていきなさい。」

植物学者は最初に植物をつんだ時、つり橋が消えたことを思い出しました。彼は考えましたが、仕方なく植物をおいて元の世界へ帰ることにしました。集めた植物をおき、盲目の男の家を出るとそこにつり橋が現れ、元の世界へ戻ることができました。



☆六年生は随筆を書きました。

「母」 六年 鈴木愛良瑠

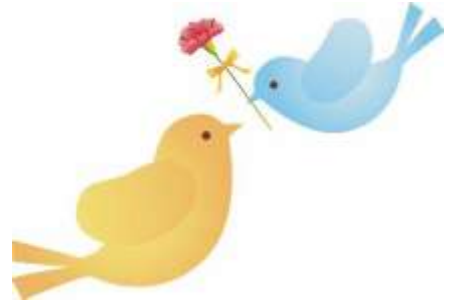
私の母は、はねのない人の形の天使です。
なぜかという、私が泣くたびに私の涙をぬぐって
くれ、病気になると看病してくれます。

母は私がひとりの時、私の友達となって、そして
教師のように、自分が経験した事や知っている
事を全部教えてくれます。

母は私が生まれた時から私のそばにいてくれます。そして、いつも私の事を心配
してくれます。

母は私の笑いを笑い、私の悲しみを、悲しんでくれます。そしてやすらぎを与え
てくれました。

母が今まで私のためにしてくれてきたことと、同じようにかえすことはできないけ
ど、これからも、最善をつくしたいと思います。



「無題」 六年 奥山ティナ

久しぶりに会えるラッキー、私の事をおぼえていてくれるのか、とても心配でし
た。私は長い間会わなかった人の名前を忘れたりする事もあるから、きっと犬も忘
れる事もあるだろうと思っていた。でも、いなかについたら私たちの車を見て、キャン
キャン喜んで、しっぽをふりながら走って迎えに来ました。とてもうれしかった。犬
は、かいぬしの事やうれしかった事をよくおぼえているようだ。きつといやな事もお
ぼえているかもしれない。なぜなら、ラッキーはきれいな
人、知らない人にはほえます。かべの外から顔が見えない
のに、知っている人にはほえないし、犬は鼻がとてもいいの
で、いろんな事をきおくだけではなく、においではんだんして
いるのかもしれない。いつもやさしく一緒にいてくれるラッキ
ーを私も忘れる事はありません。



編集後記



今年度の補習校もおかげ様でいよいよ修了間近です。秋から週一回の授業を
行ってきましたが、日頃から宿題や日本語に触れる機会を積み重ねていくこと
で、だいぶ成果が上がったのではないのでしょうか。補習校生も保護者も、各自学
習発表会と修了式の準備がいろいろとありますが、子どもたちの心に残る式典に
なる様に、ご協力よろしくお願いいたします。